

## 第二章 着地側調査に基づく来訪者特性

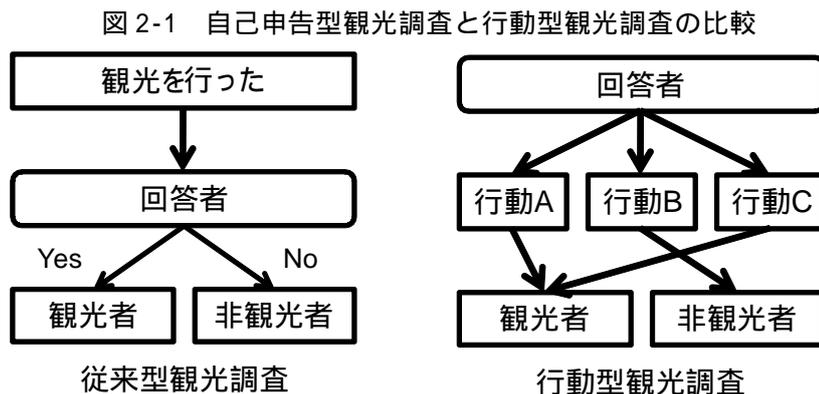
### 1. 着地側調査の目的と実施概要

#### 1-1. 調査の目的

都市地区にあって、下町の多彩な魅力を持つ本区においては、浅草の天ぷらや雷おこしといった「食」、上野のアメ横、演芸や芸術の鑑賞など「まちにある人やモノ」を目当てに、「非日常」ながらも、一定の頻度でリピートする来訪者も少なくない。こうした行動は、「台東区観光客マーケット調査」では十分に捉えきれなかったと考える。図 2-1 に示したように、従来型観光調査では、アンケート票の回答者が自身の来訪目的を「観光」と考えるか否かによって、その来訪者が「観光客」であるかを判断してきた。しかし、回答者個々の主観的な観光意識のみに依存して「観光客」を捉えることは課題が残る。

本区に来訪者は、必ずしも遠方から訪れているとは限らず、むしろ、比較的近隣から来訪している割合が高い。これらの来訪者の場合、演芸を楽しんだり、天ぷらを食べたりと、遠方からの「観光客」と同様の行動をしているにもかかわらず、主観的な観光意識は低いと考え、「台東区観光客マーケット調査」の分析対象からは漏れていたことになる。

そこで、今回の「観光客マーケット調査」では、来訪者自身が台東区内でどのような行動(アクティビティ)を行ったかを調査し、来訪者の来訪目的を、調査・分析する側が観光客か非観光客の識別をすることとした。



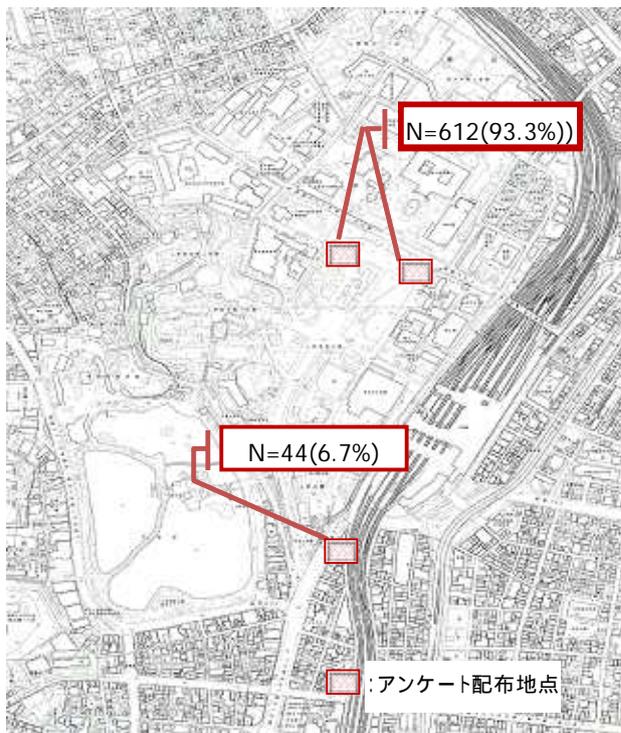
#### 1-2. 調査の概要

##### (1) 調査対象地区

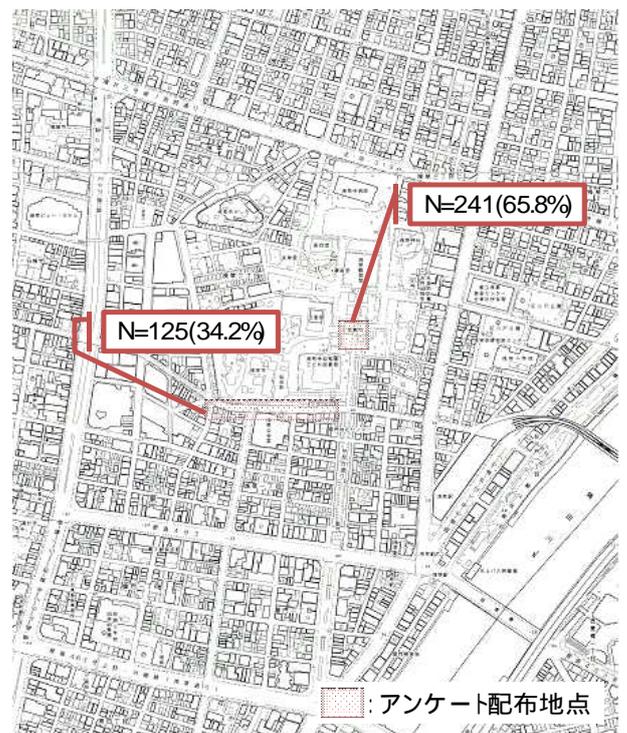
本調査は、上野地区、浅草地区の来訪者を対象にアンケート形式での調査を実施した。図 2-2 に示した調査地点で無差別に抽出した来訪者に直接調査への協力を依頼し、後日郵送回収した。上野地区では 上野公園内の通り沿い アメ横入り口付近でそれぞれ配布をした。

また、浅草地区では 伝法院通りと 宝蔵門付近で配布した。

図 2-2 アンケート配布地点  
上野地区



浅草地区



(N ; 回収数、( )内は各地区の回収数全体に占める割合)

(2) 調査日時

現地でアンケート票を配布した日時は、表 2-1 に示した通りである。平日時と休日時の双方のデータを採ることができるよう、実施日を配慮した。なお、調査日は、文化施設の多くが金曜を除く毎日午前 9 時 30 分～午後 6 時の営業時間帯であり、全体の歩行者（母集団）に対する通勤・通学者の割合が低い時間帯を調査票の配布時間とした。

表 2-1 調査日時

対象地区	調査実施日	天候	時間帯
上野	平成 20 年 9 月 5 日 (金)	晴れ	各日とも
	9 月 16 日 (火)	雨のち晴れ	
	9 月 17 日 (水)	晴れ	
	9 月 20 日 (土)	晴れ	
浅草	平成 20 年 9 月 5 日 (金)	晴れ	9 : 00 ~
	9 月 11 日 (木)	雨	17 : 00
	9 月 12 日 (金)	晴れ	
	9 月 13 日 (土)	晴れ	
	10 月 5 日 (日)	晴れ	

### (3) 調査内容

本調査では、上野・浅草地区の来訪目的や当該地位で実際にとった行動などを把握するため、以下のような項目について質問した(表 2-2)。なお、両地区の質問票は付録に収録した。

表 2-2 調査項目・内容

調査項目	調査内容
各地区の来訪目的	・上野・浅草各地区を来訪した主要目的
各地区でとった行動	・各地区でとった行動(行動別に有無を質問) ・飲食・買物に関する特別な意図の有無 「行きたかった店」で「買ったかった(飲食したかった)商品」を購入したか否か
1日の行動について	・一日の行動を開始した場所から上野・浅草地区を訪れるまでの行動 ・上野・浅草地区を出発して、一日の最後に到着した場所までの行動
外出について	・台東区内で立ち寄った文化観光施設 ・一年間で台東区と上野・浅草地区に訪れた回数 ・上野・浅草地区に関する情報源 ・今回の外出(お出かけ)に関する消費額
外出の同行者	・今回、外出時の同行者の属性及び人数
個人属性	・個別回答者の性別、年代、職業、通勤通学先の住所、居住地の住所

## 1-3. 配布・回収状況及び回答者属性

### (1) 配布・回収状況

調査票は、平成 20 年 9 月上旬から 10 月上旬にかけて、上野・浅草地区の来訪者に調査員が直接手渡しにより配布し(表 2-3)、郵送で回収した。

その結果、回収率は浅草地区で 25.7%、上野地区で 43.4%であり、全体で 34.9%となった。

表 2-3 配布数と回収数

	浅草地区	上野地区	全体
配布数	1,425	1,535	2,960
回収数	366	666	1,032
回収率	25.7%	43.4%	34.9%

### (2) 回答者属性

回答者の性別は、上野地区では男性が 31.1%と女性が 66.1%、浅草地区では男性が 37.4%と女性が 59.6%となり、両地区ともに女性の方が多くの割合を占める結果となった(図 2-3)。

回答者の年齢層は、両地区ともに、61 歳から 70 歳までの属性が最も高い割合を占めており、51 歳以上の年齢層が上野地区では 78.3%、浅草地区では 61.8%と過半を占めた(図 2-4)。

回答者の職業は、両地区ともに、会社員・公務員、専業主婦（夫）、無職が高い割合を占めた(図 2-5)。

回答者の居住地は、回答者の住所を表 4 に示した類型で集計した<sup>3</sup>。その結果、両地区ともに 23 区内からの来街が全体の 30%以上を占めた。浅草地区に関しては、1 都 3 県外からの来街者も 27%と高い割合を占めた(図 2-6)。

図 2-3 回答者の性別

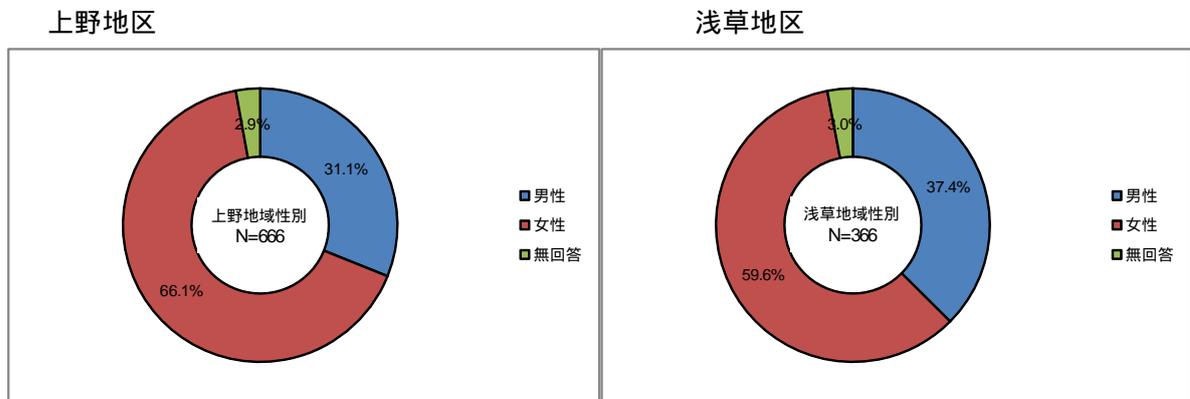


図 2-4 回答者の年齢層

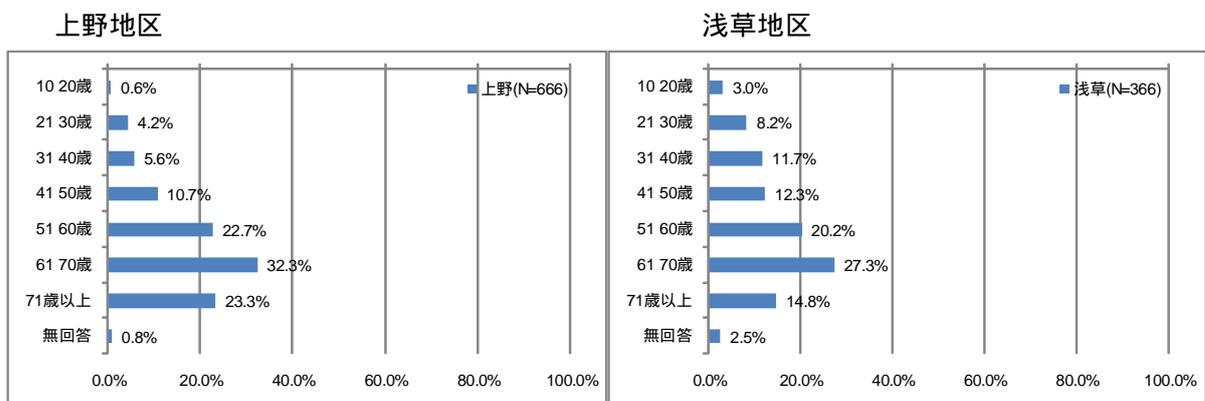
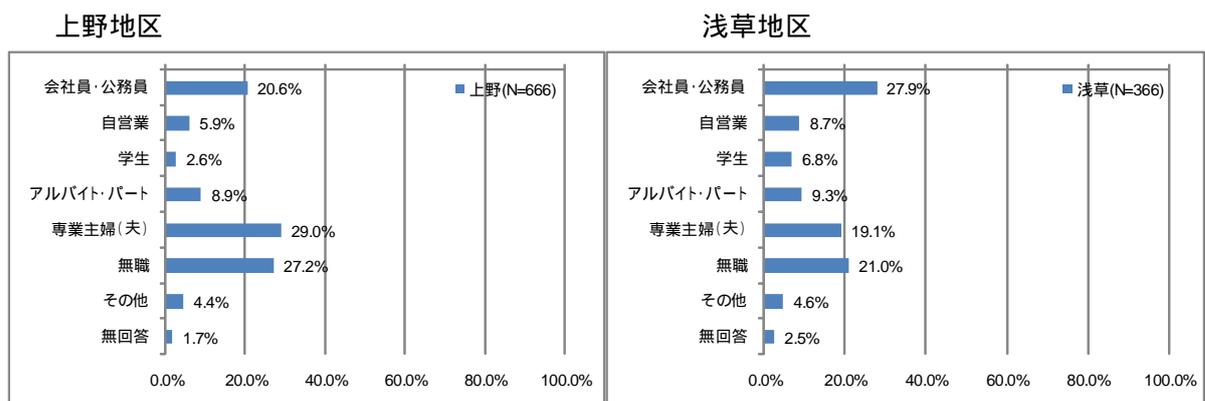
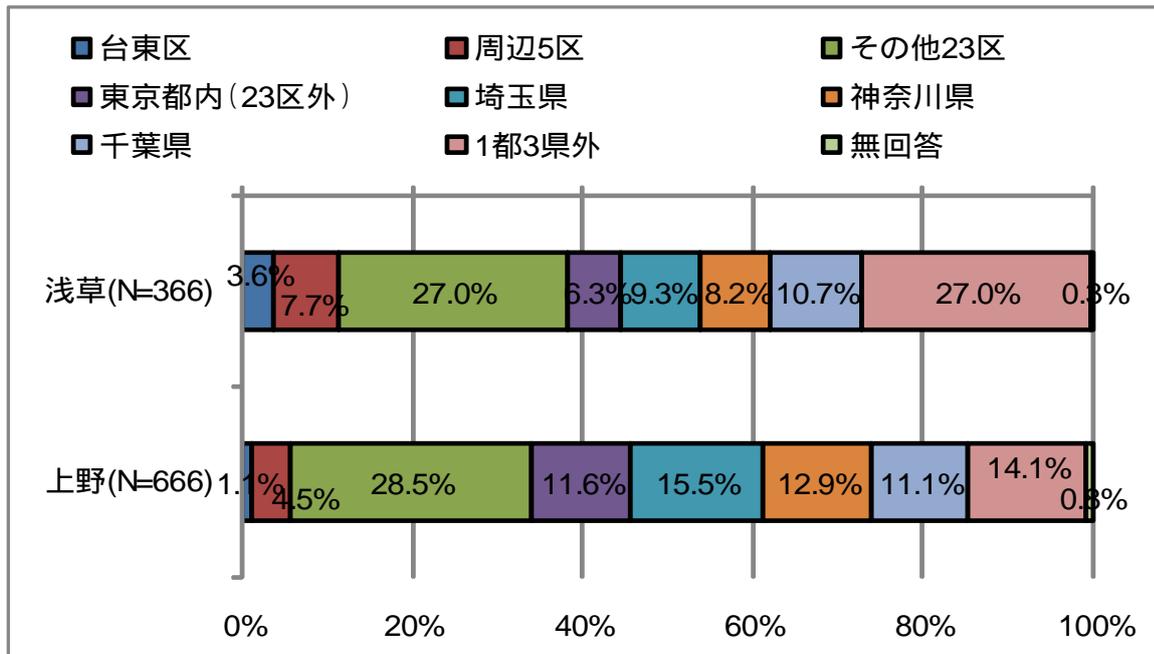


図 2-5 回答者の職業



<sup>3</sup> 周辺 5 区：台東区に隣接する千代田・中央・文京・墨田・荒川の各特別区

図 2-6 回答者の居住地



## 2. 上野・浅草地区における来訪者の行動と諸特性

### 2-1. 上野・浅草地区における来訪者行動

#### (1) 調査対象とした活動目的

前節で述べたように、本章で示す着地側調査では、上野・浅草両地区の来訪者（回答者）が実際にとった行動を把握した。具体的には、表 2-5 に示した各活動目的別に実施の有無を質問している。

表 2-5 着地側来街者調査で把握した活動

・非観光行動（業務系）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場への出勤・学校への通学</li> <li>・職場外の業務・商用・出張</li> </ul>
・「楽しみのための行動」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事・喫茶</li> <li>・買物</li> </ul>
・観光施設への来訪有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術鑑賞【上野のみ】</li> <li>・動物園見学【上野のみ】</li> <li>・寺社参拝【浅草のみ】</li> <li>・大衆演劇・落語の鑑賞【浅草のみ】</li> <li>・花やしき来園【浅草のみ】</li> </ul>
・日常生活行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩・散策</li> <li>・その他私用（通院・塾・習い事）</li> </ul>

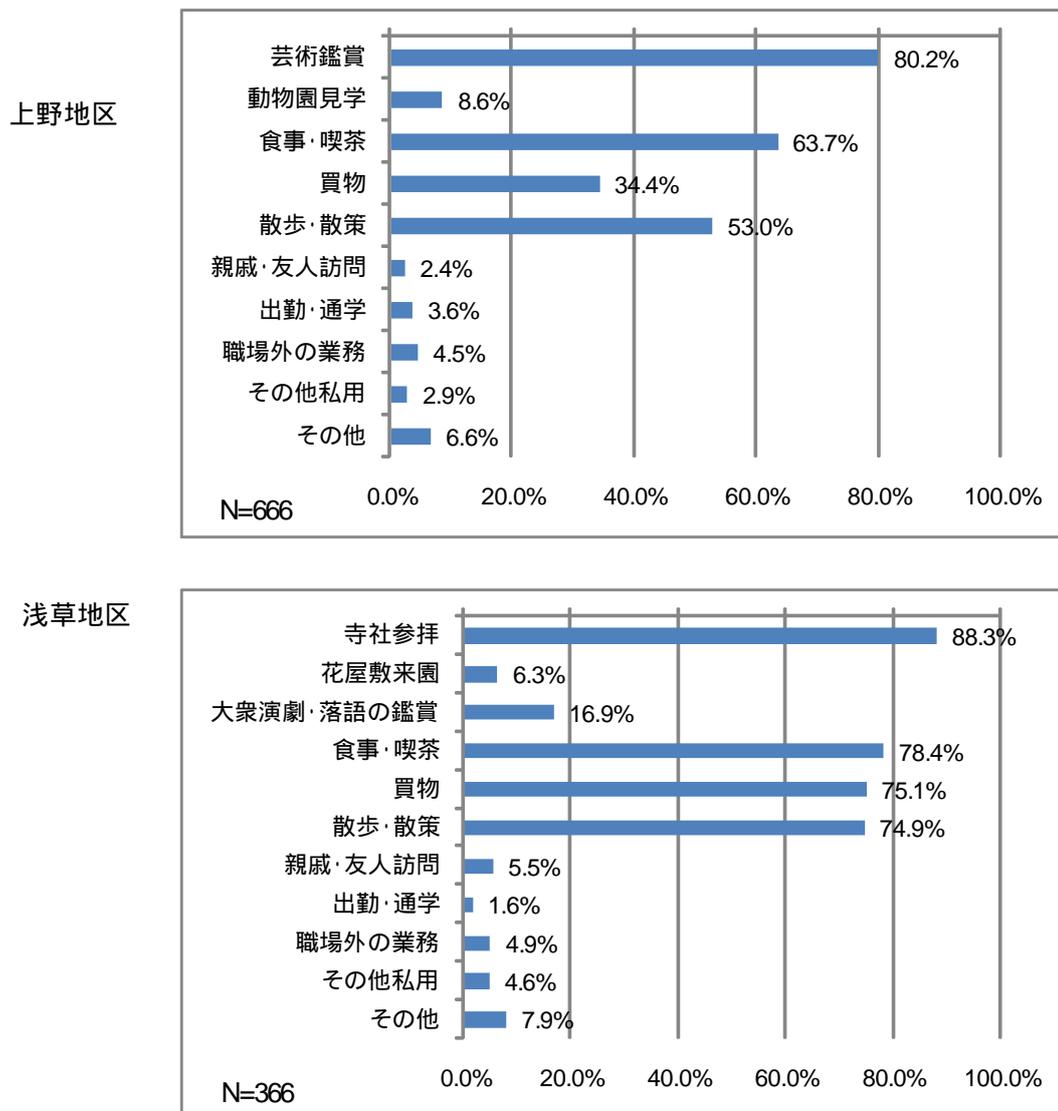
## (2) 活動目的別実施率

上野・浅草地区の来訪者が実際にとった行動について、表5に示した活動目的別に実施率(各目的の有効回答者に占める「おこなった」と回答した者の割合)を示す(図2-7)。

・上野地区では、**芸術鑑賞(80.2%)**、**食事・喫茶(63.7%)**、**散歩・散策(53.0%)**の順で来訪者の実施率が高かった。

・浅草地区では、**寺社参拝(88.3%)**、**食事・喫茶(78.4%)**、**買物(75.1%)**、**散歩・散策(74.9%)**の順に来訪者の実施率が高かった。

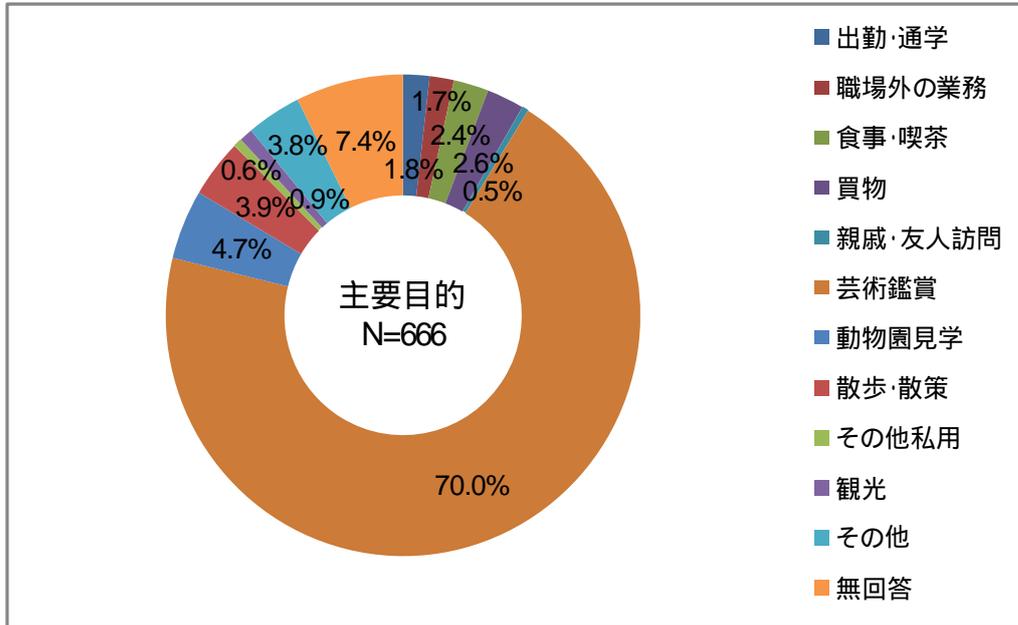
図2-7 活動目的別実施率



### (3) 回答者が選択した来訪目的

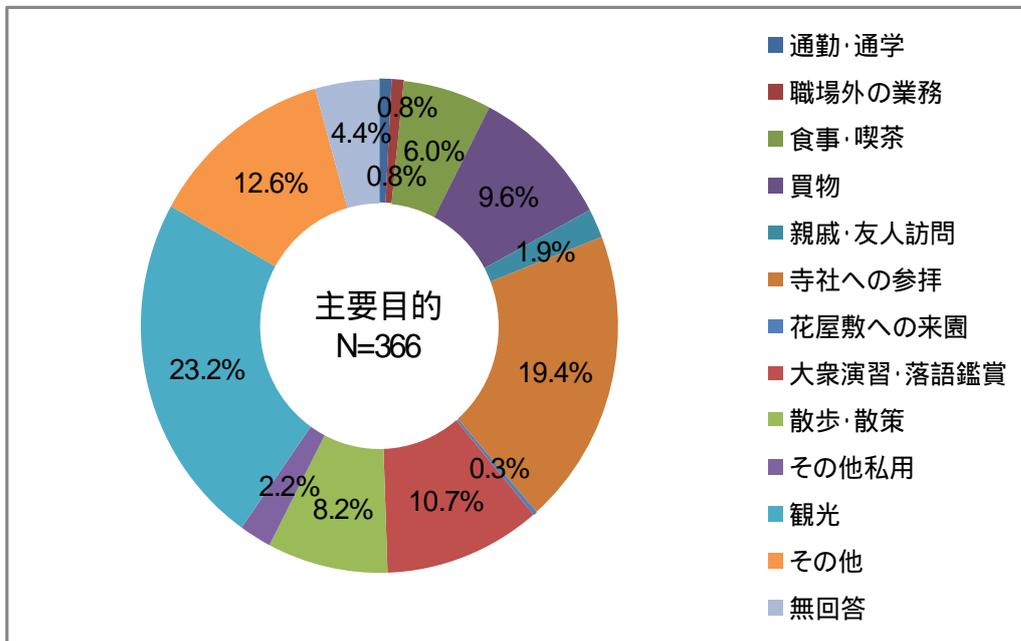
上野地区の来訪者（回答者）が、表 2-5 に示した活動目的に「観光」を加えた全ての項目の中から「主たる来訪目的」を選択した結果が図 2-8 である。結果、**芸術鑑賞**を選択した割合が**70%**と最も高い比率を占めた。

図 2-8 上野地区における主たる来訪目的



浅草地区の「主たる来訪目的」に関しては、「観光」選択した回答者が**23.2%**を占め、上野地区とは異なる傾向を示した(上野地区は3.8%)。続いて**寺社参拝 19.4%**、**大衆演劇・落語の鑑賞 10.7%**と続く(図 2-9)。

図 2-9 浅草地区における主たる来訪目的



## 2-2．上野・浅草地区における来訪圏域

上野・浅草両地区における来訪者の居住地を集計し、来訪圏域を明らかにした。来訪圏域は、着地側調査で回答があった居住地（市区町村）を用いて、両地区から回答者の居住する市区町村の役場までの直線距離を求めることで明らかにした。なお、その直線距離の計測は Google Earth を利用し、来訪圏域に関しては、表 2-6 に示した 5 つの階級に分類の上集計した。

表 2-6 来訪圏域の階級

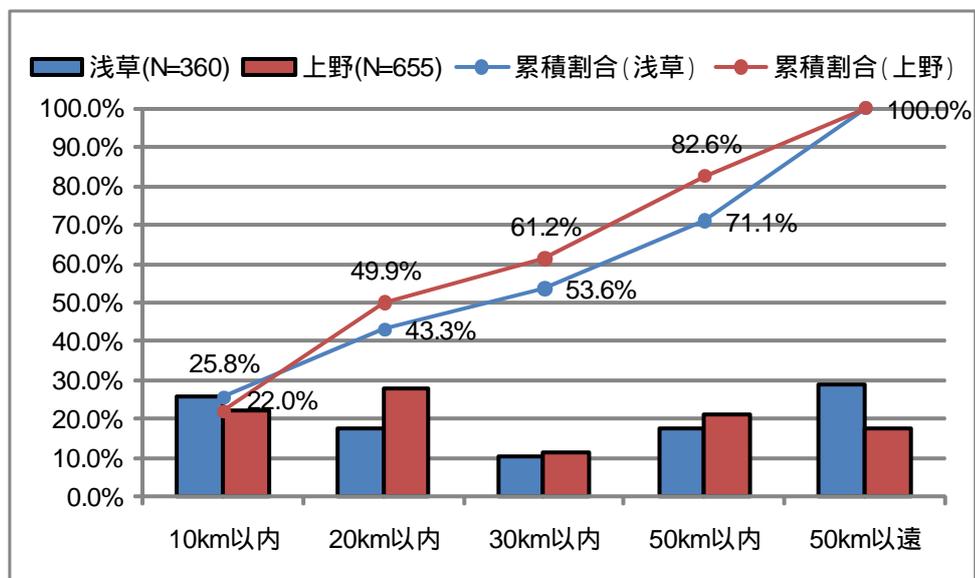
階級	説明
10km以内	居住地が10km以内の者
20km以内	居住地が11km以上20km以内の者
30km以内	居住地が21km以上30km以内の者
50km以内	居住地が31km以上50km以内の者
50km以遠	居住地が51km以上遠方の者

上野地区では、居住地までの距離が「11km 以上 20km 以内」からの来街者が 28%と高い割合を占めた。

浅草地区では、居住地までの距離が「50km 以遠」からの来街者が 29%と高い割合を占めた。また、近隣である「10km 以内」からの来街者の割合も 26%と同程度の割合を占めた。

両地区の来訪圏域の違いは上野地区の方がより近隣からの来街者が多い地区であることが分かった。

図 2-10 上野・浅草地区における来訪圏域



### 2-3 . 上野・浅草地区における本年の来訪頻度

上野・浅草両地区を訪れる頻度（来訪頻度）を集計した結果を図 2-11 に示す。来訪頻度の集計単位は、表 2-7 に示した 4 つの階級に分類した。

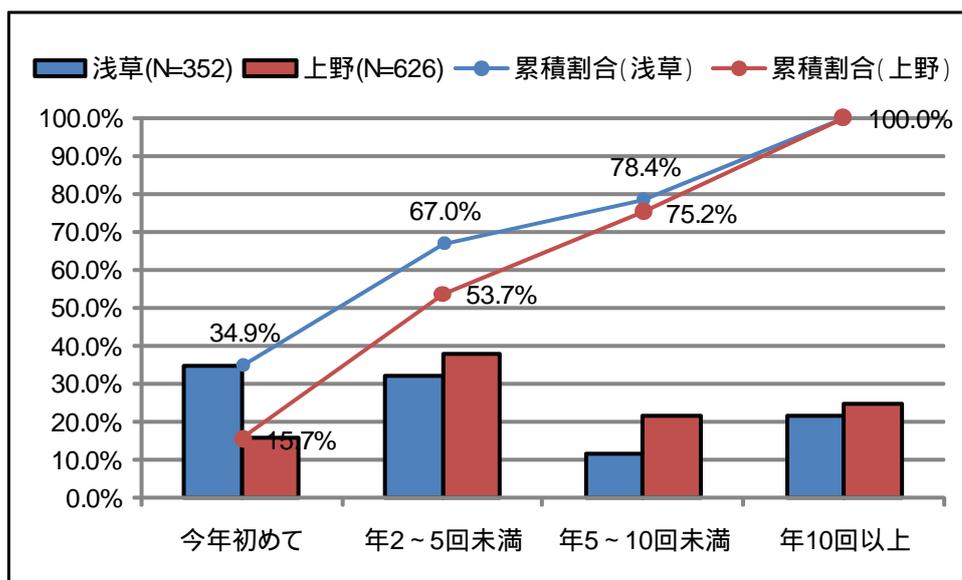
表 2-7 来訪頻度の階級

階級	説明
今年初めて	今年初めて来街した者
年に2～5回未満	今年に入って2回～4回位来街した者
年に5～10回未満	今年に入って2回～9回位来街した者
年に10回以上	今年に入って10回以上来街した者

上野地区では、「今年初めて」の来訪者が 16% となったのに対し、浅草地区では「今年初めて」の来訪者が 35% となった。また、上野地区では「年に 2 回以上 5 回未満」の来訪者が 38% と最も高い割合を占めた。

なお、両地区の来訪頻度に違いは上野地区の方が来街者の来街頻度が高い地区であることが分かった。

図 2-11 上野・浅草地区における来訪頻度



## 2-4．調査日における来訪者の行動

### (1) 調査日前後の宿泊

上野・浅草両地区の来訪者が、調査日（調査票を受け取った当日）の前後に宿泊を伴っているかについて集計したものが表 2-8 である。両地区ともに、調査日当日の「日帰り」と回答した来訪者が大半を占めた。特に、上野地区では「日帰り」する来訪者が 9 割近くに達した。

表 2-8 調査日前後の宿泊

調査項目	上野	浅草
	(N=666)	(N=366)
日帰り	87.5%	73.5%
前泊（調査日前日のみ宿泊）	3.9%	10.1%
後泊（調査日当日のみ宿泊）	2.1%	5.2%
連泊（調査日前日・当日の宿泊）	3.3%	6.8%
無回答・その他（車中泊等）	3.2%	4.4%

上野・浅草両地区の来訪者が宿泊した先を市区町村別に集計したものが表 2-9 である。浅草地区の来訪者では、台東区内に宿泊した割合が最も高くなった一方で、上野地区の来訪者では、台東区内に宿泊した割合が低くなり、港区や千代田区、品川区の宿泊施設に滞在している割合が高い。

表 2-9 来訪者の宿泊先（市区町村別集計）

上野				浅草			
	前泊	後泊	計		前泊	後泊	計
港区	6	5	11	台東区	12	6	18
千代田区	5	3	8	新宿区	5	8	13
品川区	5	3	8	品川区	9	3	12
大田区	3	3	6	千代田区	7	2	9
横浜市	3	1	4	港区	4	0	4
中央区	3	1	4	浦安市	3	1	4
台東区	1	3	4	中央区	3	0	3
その他 都内	11	11	22	その他 都内	8	8	16
その他	9	4	13	その他	7	9	16
不明・車中泊等	2	2	4	不明・車中泊等	4	7	11
計	48	36	84	計	62	44	106

### (2) 旅行の種類

調査日当日の旅行の種類について質問した結果を図 2-12 に示した。パッケージプラン等の旅行を行う者の割合は、浅草地区が 5%、上野地区が 3%といずれも低く、両地区ともに、旅行会社を経由せずに個人でチケット等を購入し来訪する者の割合が高いことが明らかになった。